

## 納税での応援と恩返し

熊本県立宇土中学校1年 武末 華那

私には、高校二年生の姉がいる。姉の将来の夢は、海外で働くことだ。そんな姉は今年の夏、「グローバルジュニアドリーム事業」という台湾研修に参加した。何度も県庁での事前研修をして、準備に取り組んでいた。三泊四日の本研修を終えて帰って来た姉が両親と話していた。それは、今回の研修は税金で賄われていたということだ。他にも海外を目指す学生に向けたプログラムがあるようで、姉はいくつかのプログラムに参加していた。私はそのことを聞き、税によって姉の夢を応援してもらっているような気持ちになり、うれしくなった。

これまで私は「税金」と聞くと、消費税や所得税、住民税などの、「払う」税というネガティブなイメージしかなかった。しかし、今回姉の話聞いて、私たち学生に向けた、「使う」税が身近にあることを知り、とても驚いた。その他にも調べてみると、私達の教育に使われている税がたくさんあった。例えば、学校で配られているパソコンや教科書、机、椅子、校舎などと、ほとんどの物に税金が使われていた。私たちは今、当たり前前に学校へ行き、授業を受けたりしているけど、それらのほとんどが、税金と関わっていた。姉は其中で夢を見つけ、夢に向かって頑張っている。そこにも税が関わっていて、これから私達が見つけていく夢は、きっと税によって応援してもらえることがたくさんある。そう考えると私達にとって、税というものは、「夢の応援団」みたいなものだと感じた。

今私は、夢を見つけている途中で、これから経験するたくさんの中には、税金が関わってくる。それは、先生や家族が応援してくれることと同じように思うと心強い。学校の備品も大切に扱おうと思うし、一緒に頑張ろうという気持ちになれる。

これまで、私はたくさんで場面で税金に助けられてきた。そしてこれからも助けられると思う。そのたびに私は感謝を忘れず、自分なりに前に進んでいきたい。そして、私が大人になった時、これまでの恩返し、またこれから未来に進もうとしている子供達への応援の気持ちを込めて、納税したいと思う。